

心豊かな暮らし

<http://www.yabashi.co.jp/house/>

縁_{en}

2016 Vol.39 summer



OU MODEL HOUSE



季刊
縁
en 2016 Vol.39 summer

contents

P 3 >>

特集

みんなが集まるにぎやかな家 岐阜県 安八郡 S様邸

P 7 >>

N様邸竣工披露 愛知県半田市

P 9 >>

心豊かな暮らし「矢橋の家」
名古屋ショールーム 今夏 NEW OPEN !

P 11 >>

Yabashi Original 矢橋オリジナル仕上材

P 13 >>

MODEL HOUSE公開中!

連載

中山道赤坂つれづれの記 文/故 清水春一
俳聖芭蕉(一)

表紙 牡丹園内 新緑
P.1 VEGETABLE SHOP余呉農園
P.2 「欧」モデルハウス

心豊かな暮らし



VEGETABLE SHOP 余呉農園

所在地: 岐阜県不破郡垂井町表佐410-1 (矢橋テクニカルセンター内)
営業日: 土・日 10:00~16:00 駐車場: 有り



ケーキセット
はじめました。



お問い合わせ
TEL : 0749-86-3021
E-mail : yogo@mail.yabashi.co.jp



- 01 明るい光が差し込む吹き抜けのあるリビング
- 02 温もりを感じる矢橋オリジナル無垢キッチンカウンター
- 03 ペニンシュラキッチンから繋がる広々ダイニング。大勢集まった時にはダイニングテーブルが調理台に
- 04 ふっくらと仕上がった奥様の手作りパン。教室で学んだ様々なパンが食卓に並ぶ
- 05 バレーのコーチをしていらっしゃるご主人。棚には教え子たちからの贈り物が
- 06 駐車場からアプローチ、玄関へと続く奥行きのあるS様邸外観。東隣は母屋
- 07 母屋からS様邸のリビングへとつながる出入口。笑顔で訪れたお母様
- 08 S様邸と母屋をつなげるお父様お気に入りの庭。出入りはいつもここから



イベントが大好きなS様のご親戚。笑みがこぼれる。毎回各家庭に指令が届き、各自自宅で歌や踊りの練習をし本番前に合同練習をし、お披露目をするのだとか。楽しそう♪

60TH ANNIVERSARY
悠楽
YUURAKU

心豊かな暮らし



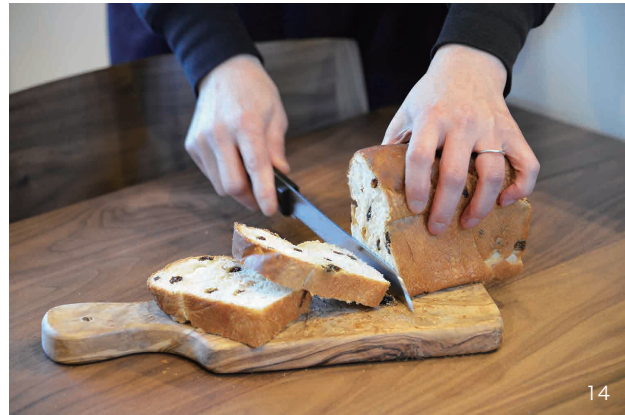
■ 特集

みんなが集まるにぎやかな家

岐阜県安八郡 S様邸

「みんなすぐ集まって来ます。」と笑顔のS様。

S様邸には、年に何度も東京、大阪、名古屋など各地から親戚がたくさん集まって来るといふ。記念日には、イベントが開催され歌や踊りが披露される。毎回ビンゴゲームも欠かさない。たくさんの写真や贈り物、あふれる思い出話から仲が良く楽しそうな雰囲気が伝わってくる。「一度来ると何泊もして行きます。」とお母様。母屋のすぐ隣に建てられたS様邸。今後、より一層にぎやかになりそうだ。



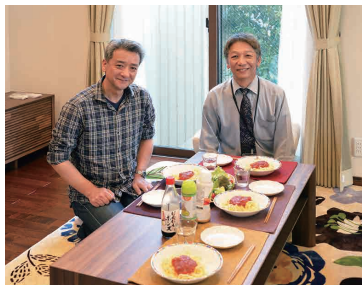
09

ご主人は、バレーのコーチをされているため、仕事が終わると隣の母屋で食事をし体育館へ。子どもたちも帰宅後お隣へ。そして塾やスポーツとそれぞれの時間を過ごす。奥様も仕事が終わると母屋へ。お母様、毎日の食事作りに、また親戚一同も集まり大変ですと尋ねると「この人生最高です!」と。毎日行ったり来たりしお互いに助け合って暮らしていってらっしゃるS様。時にはにぎやかに、時にはそれぞれの時間を過ごす。和やかな空気が流れるS様邸。週末はご家族で食事をされとか。



09リビングから繋がるウッドデッキ 10収納たっぷりの玄関 11奥様の趣味はパン作り。ダイニングテーブルで生地を擀ってゆったりと 12仲良しの兄弟。2F廊下よりリビングを眺める 13兄弟並んで勉強。2Fの子ども部屋 14しっかりと焼きたてのレーズンパンは絶品 15 パン作りに使用する発酵器 16システムキッチンに備え付けられたオープン 17家族がつながる開放的なリビング。ご主人は、毎晩お風呂で十分疲れを癒した後、ここで寛ぐのが最高と 18時間を見つけてご主人も庭のお手入れを 19新築記念に家族4人の手形を 20庭に飾られた記念の手形

多様に変化するリビング廻り
リビングには、様々な機能(和む、癒す、招く、集う、持成す等)が存在します。家族みんなの憩いの場、ご主人の安らぎの場、隣接するダイニングキッチンを含めた奥様のパン工房、ある時は親戚一同が集まるパーティー会場。空間として繋がり、人として繋がる。
S様ご家族は、「住むだけでなく楽しめる住まい」を実践して見えます。
そんな心豊かなご家族に巡り合えて、とても幸せです。
取材当日、昼食までご用意いただきありがとうございました。



営業担当 住宅部 課長 金森善彦(右)



11



10



N様邸 竣工披露

愛知県半田市

この度、N様より住宅建設のご用命を賜り、早川正夫建築設計事務所様に設計をお願いし弊社にて施工をさせて頂きました。伝統的な日本の町屋を基本にN様のご要望を承りながら設計をして頂きました。内装には旧宅に使われておりました材料をはじめ無垢の木の床などを使い、断熱性能を考慮して暮らしやすい、現代和風の住まいを完成する事が出来ました。また、お庭も代々受け継がれてきた樹木や石材を活用し、同時に設計施工をさせて頂きました。この度N様のご好意により、弊社にて設え、竣工披露をさせて頂き、N様のお親しい方々にご覧頂きました。2016年1月23日・24日の2日間で100名近くの方々にお越し頂きました。





和
NAGOMI

夫婦二人で暮らしを楽しむ為の
「終の棲家」

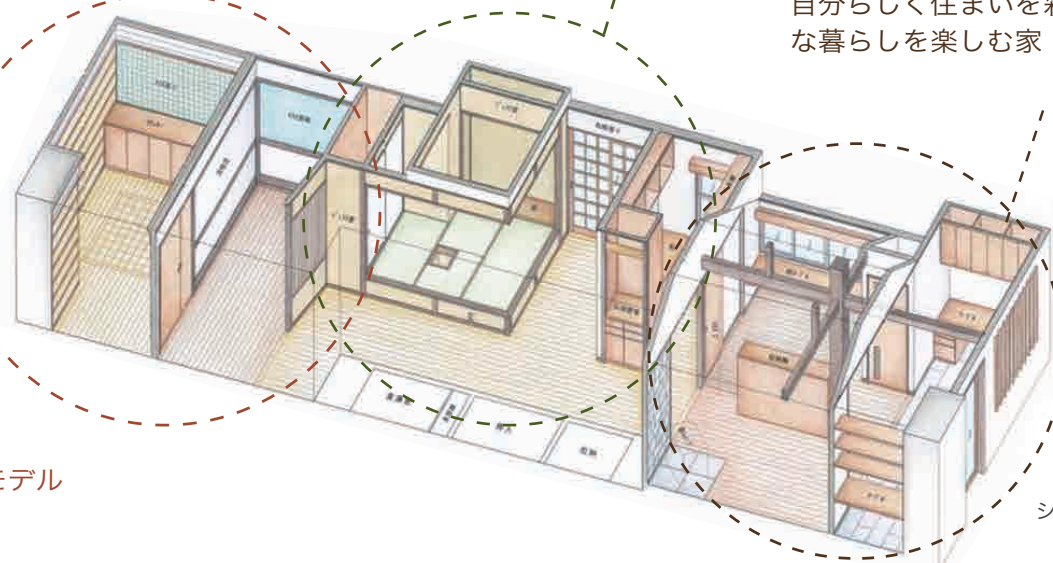
60TH ANNIVERSARY
悠楽
YUURAKU

四季を感じ本物を取り合わせ
自分らしく住まいを彩り上質
な暮らしを楽しむ家

図、写真はイメージです

欧^{OU}

木と土と石を使った
近代西洋建築の復刻モデル



ショールーム
イメージ図

心豊かな暮らし「矢橋の家」 名古屋ショールーム



OU



NAGOMI



YUURAKU

名古屋ショールームのオープンについて

「心豊かな暮らし」テーマに進めて参りました「矢橋の家」は長い間、岐阜県の西濃エリアでご愛顧賜って参りました。西濃エリアでは既に弊社が建てさせて頂きました住宅は千棟を超えております。

日本の近年においては少子高齢化が実感できるほど進んできております。この西濃エリアに於いても我々の商品をお選び頂くお施主様は減少傾向になって来ております。しかし、我々は「心豊かな暮らし」を目指す「矢橋の家」のポリシーを変えるつもりはありません。我々のポリシーを理解し、ご共感頂き、ご信頼頂けるお施主様を求めて受注エリアを拡大していかなければならないと考えております。

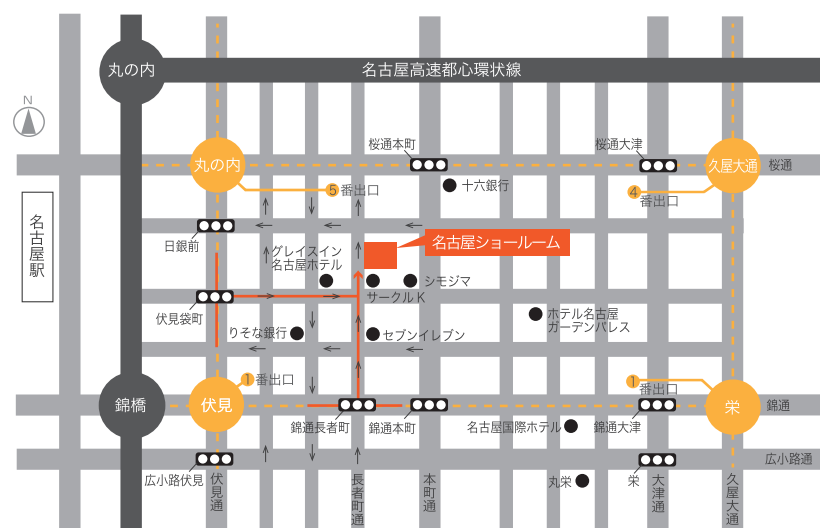
「心豊かな暮らし」をポリシーとする「矢橋の家」のニーズは名古屋エリアでは必ずあると確信を致しております。しかし、我々は決して拡大志向ではありません。十分な顧客サービスが出来る範囲、棟数を限度として、新しい市場を開拓していかなければなりません。

名古屋エリアで、「心豊かな暮らし」を実現する「矢橋の家」をご理解頂けるお施主様との出会いをめざして、一步一步進んで参りたいとの思いで、この度名古屋ショールームの開設をする事に致しました。

この名古屋ショールームは弊社のモデルであります「欧」、「悠楽」、「和」の3タイプの造作を施した部屋をご用意する予定でございます。また、矢橋工房の商品なども常時展示をし、矢橋のデザインポリシーと雰囲気をご理解頂けるような設えをする予定でございます。

名古屋ショールームを訪れて頂きましたお客様には、次には弊社の実際のモデルハウス、工場をご高覧賜り「心豊かな暮らし」を実現するものづくりを詳しく岐阜にお越し頂きご見学頂くようなご案内をさせて頂きたいと考えております。

矢橋林業株式会社 名古屋ショールーム（長者町相互ビル 1F）



〒460-0003 名古屋市中区錦2丁目5番31号 長者町相互ビル102





家のデザインディテイル

住宅建設の第一歩はお施主様にご自身のライフスタイルを描いて頂く事から始まります。

まず、現在のライフスタイルと将来のありたい姿(ライフスタイル)の両方を明確に意識して頂く事が重要です。その両方を融合した設計プランを創造する事が重要になります。

将来のありたい姿(理想のライフスタイル)をご提案するのが我々建築のプロの仕事です。

従って、「心豊かな暮らし」が我々のテーマです。具体的にご提案はモデルハウスの「欧」「悠楽」「懐」「和」「招」の中にそれぞれにスタイルを変えて「心豊かな暮らし」へのポリシーを込めて開発致しております。

ご家族だけでなく、ご親戚、ご友人がたくさんの方が集われ、そこにいと時間を忘れて寛げる空気がある家。ご趣味豊かで自分のこだわりの品々と共に暮らせる場を提供できる家。

皆様のそれぞれのご希望、ライフスタイルにお応えできるような家をご提案していかなければならないと思っております。

人の心を和ませる空間、心を込めて描かれた絵がより美しく映える空間、丹精込めた家庭菜園の色鮮やかな野菜が映える器や空間は、その空間も物と同じくらいに心が込められており、これ見よがしではなく、見逃しそうなところに心が込められている事が大事な要件だと考えております。

家の安心安全は構造材であり、計算された根拠のある設計と材料ですが、家の雰囲気構成するのは仕上げの建材の質と品格です。意識させることなく人の心を動かすのは仕上材の質(天然素材、無垢の木の良さ)と品格であり、その価値を与えるのが人の手であり、人が心を込めて物を作る事だと考えております。

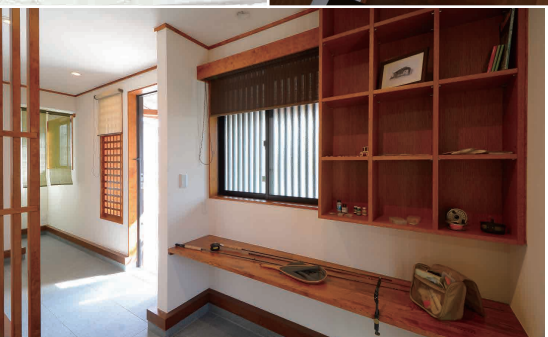
「矢橋の家」は単なるエネルギー効率の良さの機能のみならず建築のディテイル、つまり涼風の心地よさ、冬の陽ざしの暖かさ、仕上げ材の質と品格など人の感性を大切にしたいと考えております。

矢橋林業株式会社
代表取締役社長 矢橋龍宜





YUURAKU MODEL HOUSE



四季を感じ本物を取り合わせ
自分らしく住まいを彩り
上質な暮らしを楽しむ家

60TH ANNIVERSARY
悠楽
YUURAKU

MODEL HOUSE 公開中!



心豊かな暮らし 矢橋の家

KAI MODEL HOUSE



豊かさを実感できる
ミドルクラスが綺麗で
粋な暮らしを営む
現代数寄屋

KAI
懐

矢橋の家の理念

人が住むべき緑豊かな心休まる良い環境に、天然素材を活かした日本の伝統を受け継ぐ家に住もう。日本の原風景を取り戻し、日本人が育つ住環境をつくる。

矢橋の家のこだわり

安全 安心 本物 快適 家事 収納 子育て 趣味

温故知新

OU MODEL HOUSE



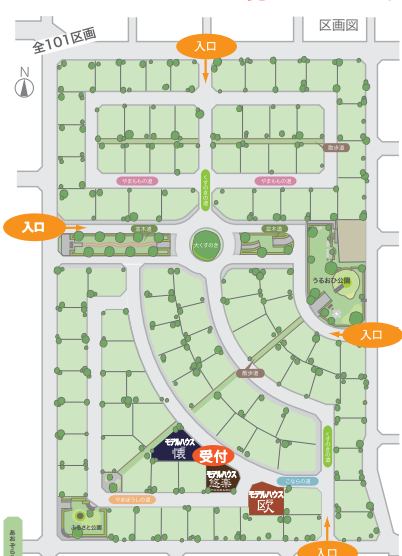
本物

矢橋オリジナル無垢フローリング

木と土と石を使った
近代西洋建築建築の復刻モデル

OU
欧

モデルハウスはこちらでご覧いただけます。



矢橋林業株式会社
YABASHI
住宅部 〒503-2122 岐阜県不破郡垂井町表佐410-1 TEL.0584-22-0001
品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9001 認証取得企業
0120-884-039
http://www.yabashi.co.jp/house/

矢橋林業

検索

俳聖芭蕉(一)

うみゆり連載集 中山道赤坂つれづれの記 故清水 春一

一代の文学者で俳人の松尾芭蕉は貞享元甲子年(一六八四)の秋、いわゆる『甲子紀行』(『野ざらし紀行』)の旅の途次、初めて美濃国を訪れました。

それは、八月に江戸深川の草庵を出発し、郷里の伊賀上野(三重県)の赤坂に帰り、引き続いて大和路から山城を経て近江に入り、そして中山道を関ヶ原垂井まで来て、宮代、表佐を通り大垣城下の船町の友人谷木因(九太夫)邸に迎えられるという旅でした。

出発のとき、「野ざらしを 心に風の しむ身かな」と詠んだ芭蕉が、旧友木因の家に泊って「死にもせぬ 旅寝の果てよ 秋の暮」と詠じています。『甲子紀行』の原文によると、「大垣に泊りける夜は、木因が家を主とす。武蔵野を出づるとき、野ざらしを心に思ひて旅立ちければ」と前書がしてあります。

また、芭蕉の晩年の弟子で、非常に信頼され、師匠の臨終まで随行して身の回りの世話までした各務支考編の『笈日記』にも、この句はあります。また大垣の近藤如行の『後の旅』には「死よしなぬ 浮身の果は 秋の暮」といひしは、杭瀬の川のながれに足をすぎて、浮雲流水を身にかけこころにかけて、頭陀やすめ笠やすめられ

し因なり。げにや茶の羽織、檜の木笠も、此ころるざしよりあふぎそめられけり」と認められ、

霜寒き 旅寝に蚊屋を 着せ申し 如行
古人 かやうの夜の 木がらし 芭蕉

と詠んで主客の心の温かい交流をみせています。このときは、木因や如行ら大垣の人々の歓待をうけて数日滞在し、多くの俳諧(連句)を残しました。第二回目は貞享五年で、赤坂宿の矢橋邸を訪れておりますので、そのことは次に譲り、ここでは第三回目の美濃来遊で、最も有名な『奥の細道』の旅からみれば付録みたいなもので、一般には全く見向きもされなかった赤坂金生山と芭蕉との因縁話をしたいと思っています。ともあれ、芭蕉の奥の細道の旅は、彼の生涯で最大の長旅であり、その旅日記は勿論のことながら、芭蕉の俳文学中での最も注目を浴びている文章です。

芭蕉の句の発見

近年に及んでも芭蕉の研究の静かなブームが続ぎ、熱心な人々が多くなつたと聞いて

います。

日本人の旅好きというか、放浪性でもといった面が芭蕉に焦点を合わせて、その作品の足跡を訪ね辿り歩く気持ちには、わかるような気がします。

さて、『奥の細道』の最後のコースである敦賀から大垣までの道中は、何も記録に残されていないで「大垣の庄い入は……」と結びの句「蛤の ふたみに別れ 行く秋ぞ」で終わっているの、この区間のことについて、多くの研究者たちがそれぞれ勝手に敦賀から大垣までのコースを推量(仮定)して、実地見分をしながら旅を味わっているの、そのことは別にしましよつ。

ここでは芭蕉が赤坂金生山の明星輪寺を訪ねて、虚空蔵菩薩に参詣したこと、そしてそこに芭蕉の句があることを述べます。横浜大学の阿部正身教授によって発見された俳句は、筆者も赤山天理教会会長の杉崎治男さんにお世話になり、天理図書館の貴重な特別本の中から『漆島』と題する手書きの古書を閲覧して、その中の二ページを費やして採録されているのを確認しました。

「赤坂の虚空蔵にて 八月二十八日 奥の院」と前書されたあとに、「鳩の声 身に入わたる 岩戸哉」と詠んでいます。

奥の細道の旅の最後は大垣で終わり、船で下つて二見に赴き、伊勢神宮のご遷宮に参拝したことは記録で判然としているのに、敦賀から大垣へ到着したのは何日だったかわからないのです。

ともあれ大垣で二週間ほど滞在して旅の疲れを休めたこと、大垣の連衆との交流もよくわかるのに、なぜか日程が不明のままでした。しかしこの金生山を訪ねた句で、八月二十八日には既に到着していたことが判然としたわけですから。

こうした貴重な資料に基づいて、大垣市文化財保護協会(矢橋龍太郎会長が昭和四十七年(一九七二)、俳聖を偲び、歴史を尊んで、将来のために同寺仁王門前の西山腹に記念の句碑を建立しました。ふるさとの誇りとして伝承されることを希つて、多くの方々のご協力をいただきましたが、現在皆さまご承知のとおり、金生山産石灰岩に花崗岩を象嵌した句碑です。



矢橋林業株式会社